

令和 6 年 第 8 回  
富 山 県 教 育 委 員 会 会 議 録

I 開会及び閉会の日時

令和6年7月22日(月)

開会午後3時00分、閉会午後3時40分

II 場所

県庁4階大ホール

III 出席委員

1番 坪池 宏

2番 黒田 卓

3番 大西 ゆかり

5番 牧田 和樹

教育長 廣島 伸一

IV 説明出席者

理事・教育次長

水落 仁

教育次長・教育みらい室長

中崎 健志

教育次長

小杉 健

参事・教育企画課長

板倉 由美子

教育参事・教育みらい室小中学校課長

山尾 佳充

教育みらい室県立高校課長

土肥 恵一

教育みらい室特別支援教育課長

魚津 直美

教育みらい室県立高校改革推進課長

丸田 祐一

生涯学習・文化財室長

辻 ゆかり

教職員課長

安川 賢一

保健体育課長

五島 直樹

教育企画課課長(高校跡地活用・学校施設担当)

中家 立雄

教育企画課課長(ICT教育推進担当)

小林 匠

教育みらい室課長(県立高校改革推進担当)

嶋谷 克司

教育みらい室課長(児童生徒支援担当)

富川 展行

生涯学習・文化財室次長・課長(振興担当)

前川 秋人

生涯学習・文化財室課長(家庭成人教育担当兼青少年教育担当)

河原 千里

保健体育課課長(食育安全担当)

松嶋 保子

V 傍聴人数 1人

VI 会議の要旨

午後3時00分、教育長が開会を宣する。

1 議決事項

議案第16号 令和7年度富山県立高等学校の入学選抜日程決定の件

教育みらい室県立高校課長から説明し、原案のとおり可決した。

議案第17号 令和7年度富山県立特別支援学校高等部・幼稚部の入学選抜日程決定の件

教育みらい室特別支援教育課長から説明し、原案のとおり可決した。

議案第18号 令和7年度富山県立学校募集定員等決定の件

教育みらい室県立高校改革推進課長から説明し、原案のとおり可決した。

2 報告事項

(1) 令和6年度中学校第3学年及び義務教育学校第9学年生徒及び令和6年度県立高等学校全日課程第

### 3 学年生徒の進路希望調査結果について

教育みらい室県立高校改革推進課長から説明した。

#### (2) 国の登録有形文化財（建造物）の登録について

生涯学習・文化財室長から説明した。

### 3 今後の教育委員会等の日程について

教育企画課主幹から説明した。

## 4 議事

### ○議案第 18 号関係

〔牧田委員〕

- ・まず質問だが、昨年の定員減の措置で、その時に5千万円ぐらいの更なる予算措置をされたという話だったが、今年度も昨年同様の措置ということで、これに伴う新たな予算措置というのはどのくらいなのか。もしくは昨年度実施したものと今年度実施したもので今回の予算措置がいくらになるのか教えてほしい。
- ・確認だが、中学生の卒業数の推移や人口減の推移等で、この定員減のやり方というのはいずれ限界が来るというのは火を見るより明らかだ。先ほどの総合教育会議でもいろいろ議論をしていかななくてはいけないということで確認しているが、今回は新たな高校再編等について議論していくための暫定かつ限定的な措置だという認識を持っていいのかどうか確認をしたい。
- ・最後をお願いだが、今回教育委員会の場で本来決めるべきことが一部マスコミに出てしまったことについて、教育みらい室県立高校改革推進課長からご連絡いただいているところだが、この辺の対応について教育委員の皆さんで打合せ、共有をしたいことがあるので、非公開でこのあと10分ほど時間をいただけないか。

〔教育みらい室県立高校改革推進課長〕

- ・今回、学級減ではなく定員減ということで提案したが、具体的な教員の配置については今後の検討が必要ということで、財政負担については今から申しあげる内容についても仮定の答えになる。令和6年度の学級編制では6校について定員減の対応を行った。今提案している令和7年度については学級編制の対象校としては7校になるが、新たに少人数となる、定員減の対応となる学校は3校になる。これに伴う県の財政負担については、教員一人当たり800万円、これは仮定の数値であり、具体的な教員配置についてはこれからになるが、昨年度の定員減による対応と合わせた場合、令和7年度の財政負担は約1億2千万円程度になると推定をしている。
- ・今後も中学校の卒業予定者の減少が続く中でいつまでこのような対応ができるかということだが、6月の会議でも学級編制の方針という中で示したが、大きな流れとして中学校の卒業予定者が減っていくということがある。具体的な学級編制についてはその都度変更し提案していくことになり、いつまでというのは今後まだ変更があると思うが、令和7年度については令和6年度と同様の対応としたいということで考えている。

〔教育長〕

- ・補足だが、今年は議論の過程ということでさせていただき、あわせて総合教育会議で議論していく。これが今年度も進むと思う。この進捗具合によって変わってくると思うが、総合教育会議で一定の方向性が出され、そこで次のステップでどう考えるか、考え方がまとめられる。そういったことが順番に進んでいくようであれば、来年度についてはその与えられた条件の中で学級編制をどう考えるかということになると思う。今年の議論をしっかりとやっていくということは別にあると思う。
- ・最後の話については委員のご意見をうかがう時間が欲しいということなので、みなさんに時間をいただきたい。

〔大西委員〕

- ・今回は学級数を減らさずに1学級の人数を減らすということで対応するというので、限界があるのではないかとすることは牧田委員と意見は同じだ。生徒にとってどうなのか。1クラス30人の高校が2校ほど見受けられるが、今後高校教育で目指す姿から離れていかないかということをお心配している。

〔教育長〕

- ・先ほどの話と重なる部分があると思うが、考え方は先ほど述べた通りで、検討していく中には大西委員が言われたことをしっかり頭におきつつやっていくということが重要になると思う。

## ○報告事項(1)関係

〔坪池委員〕

- ・中学生の進路希望調査で、通信制課程が令和2年が40人だったが令和6年には124人とかなり増えている。ということは、中学校3年の段階ですでに不登校等で全日制には行けないと感じている生徒がたくさんいる。これに対しては総合教育会議でも公私比率の会議でもあったが、高岡龍谷高校が通信制を導入するという話があった。高岡龍谷高校では最初から募集するのではなく、1年生で不登校になりかかった生徒に対して通信制の教育を提供して、全日制にしながら30単位まで単位認定して、それで難しかったら後期あるいは2年生になってから通信制に移していくというような感じだ。通信制をうまく活用すれば、不登校でうまくいかない子ども達を一旦通信制に入学させて、3年生になったときに全日制に移して全日制で卒業させるというようなこともできるかもしれない。特別支援学校では連続性のある多様な学びという言葉を使うようだが、通信制や校外の学習の単位認定とか様々なことを活用することによって、一旦全日制の学校で不登校の生徒が出たときに、どんな形で学びを続けさせて高校を卒業させていくのか研究していく必要があるのではないかと思う。

〔教育長〕

- ・担当課で調べて、どういった対応ができるか検討してみる。

午後3時40分、議事が終了したので教育長が閉会を宣した。